

## 新規選定① 近世後期の地割をよく残す但馬の城下町

### 豊岡市出石伝統的建造物群保存地区

所在地 兵庫県豊岡市出石町材木、八木及び本町の全域並びに魚屋、内町、  
宵田、田結庄、東條、小人、柳、入佐及び伊木の各一部

面積 約23.1ヘクタール

豊岡市は兵庫県の北東部に位置する。市域の南東部にある出石は、出石川と東の山塊から流れ出る谷山川との合流部付近に位置し、有子山を背にして北に広がっている。現在の出石は、慶長9年（1604）頃、小出吉英が出石城を築城するとともに城下町を整備したことはじまる。明治9年には大火が発生したが程なく復興を遂げるなど、出石は出石郡における行政、商工業の中心として機能し続け、現在に至る。

保存地区は、南北約600m、東西約620m、面積約23.1haの範囲で、近世の出石城跡とその城下町のうち、町人地の大部分と旧武家地の一部を含んだ地域である。出石城をはじめとして、街路や町人地における敷地の間口割も文化7年（1810）の絵図の記載と同じく間口二～三間が多く見られるなど、城を含む城下町全体として近世後期の地割をよく維持している。比較的奥行き深い短冊状の敷地には、街路に面して主屋が建てられる。主屋は、切妻造平入で瓦葺き、片側に通り土間を設け、それに沿って表からミセ、ナカノマ、ザシキと並ぶ一列三間取りの平面を基本とする。

豊岡市出石伝統的建造物群保存地区は、出石城跡をはじめとして、近世後期における城下町の町割や敷地の間口割をよく残すとともに、近世から近代に建てられた町家や寺社建築、武家屋敷など、但馬地方における城下町の歴史的風致を今日に良く伝えており、我が国にとって価値が高い。

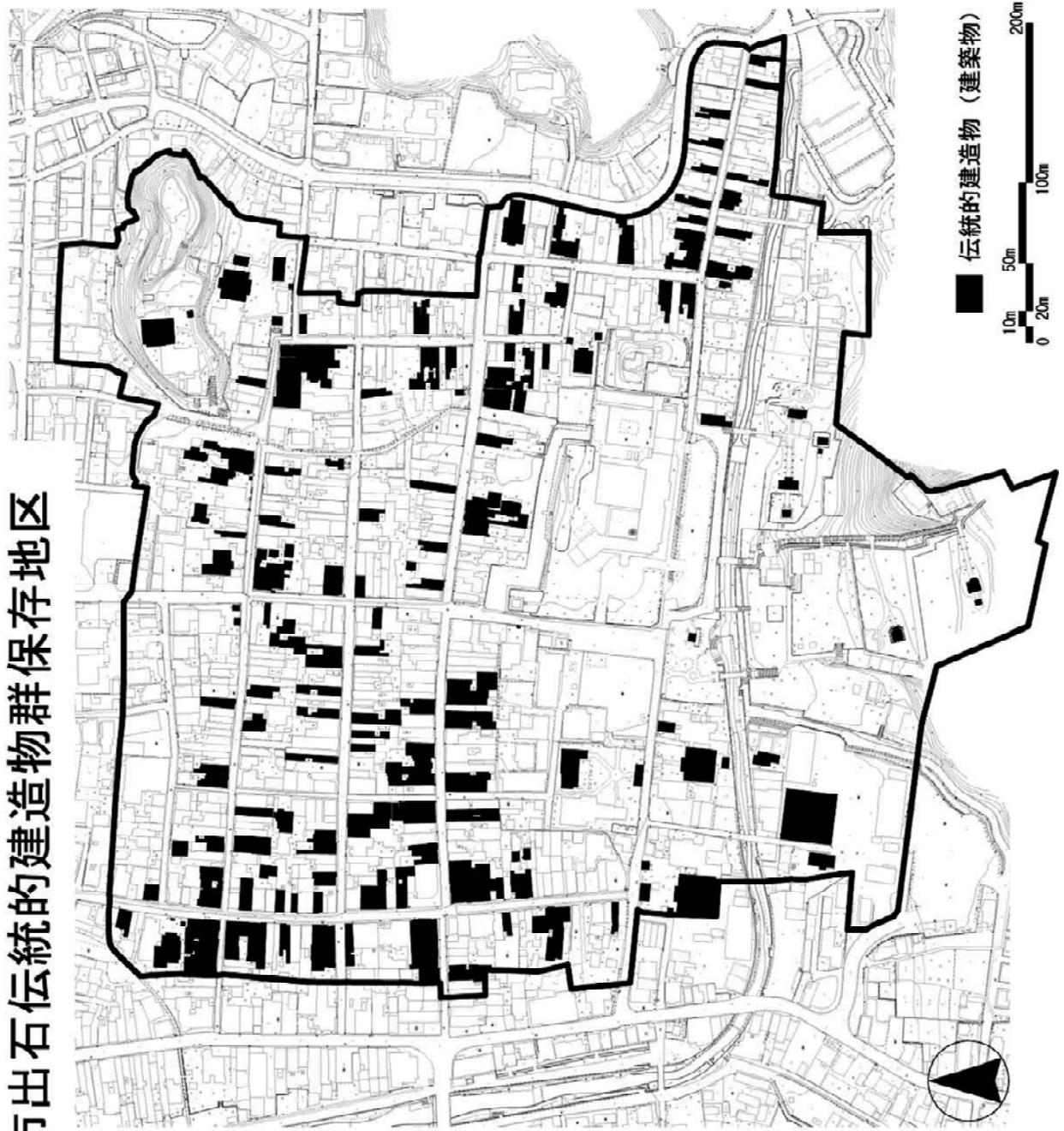


たいのしょう  
田結庄の町並み



よいだ  
宵田の町並み（出石城跡を望む）

# 豐岡市出石傳統的建造物群保存地区



## 追加選定① 石見銀山によって繁栄した鉱山町

おおだし おおもりぎんざん

### 大田市大森銀山伝統的建造物群保存地区

所在地 島根県大田市大森町の一部

面積 約162.7ヘクタール（内 拡大 約129.9ヘクタール）

石見銀山は14世紀初めに発見されたと伝え、16世紀前半に神屋寿禎<sup>かみやじゅてい</sup>が入山してから本格的に操業し、我が国屈指の大銀鉱山となった。江戸時代には周辺の村々を含め幕府直轄地となった。産銀量が最も多かったのは、17世紀の初頭とみられ、その後次第に減少しつつも幕末期まで継続して操業した。近代には民間経営となり、大正12年（1923）に閉山している。

既存の大田市大森銀山伝統的建造物群保存地区は、旧の大森町と銀山町の中心にあたる、山吹城跡の山麓から北の代官所跡周辺に至る約2.8kmの銀山川の谷間に細長く延びる町並みで、約32.8haが昭和62年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

今回追加しようとする区域は、既選定地区の周辺約129.9haである。大部分は現在、町並み背後の緑豊かな山地となっているが、かつてはその中に農地や寺社、石切場などがあり、保存地区と密接な関わりがあった。また、同様に追加しようとする羅漢寺南東側の上佐摩下地区<sup>かみさましも</sup>は、明治20年代に道路が整備された後に出来た町並みであるが、明治から昭和前半にかけての伝統的様式を持つ町家が残り、既存地区内の羅漢町から連続した景観を有している。これらを併せて保存してゆこうとするものである。

本保存地区は、石見銀山に源を持つ町としてその形態と伝統的建造物群をよく残し、今回拡大しようとする周囲の豊かな自然環境や近代の町並みとともに特色ある歴史的風致を形成しており、我が国にとって価値が高い。



旧大森町の町並み



上佐摩下地区の町並み

大田市大森銀山  
伝統的建造物群保存地区

- 既選定地区
- 地区範囲
- 伝統的建造物（建築物）

